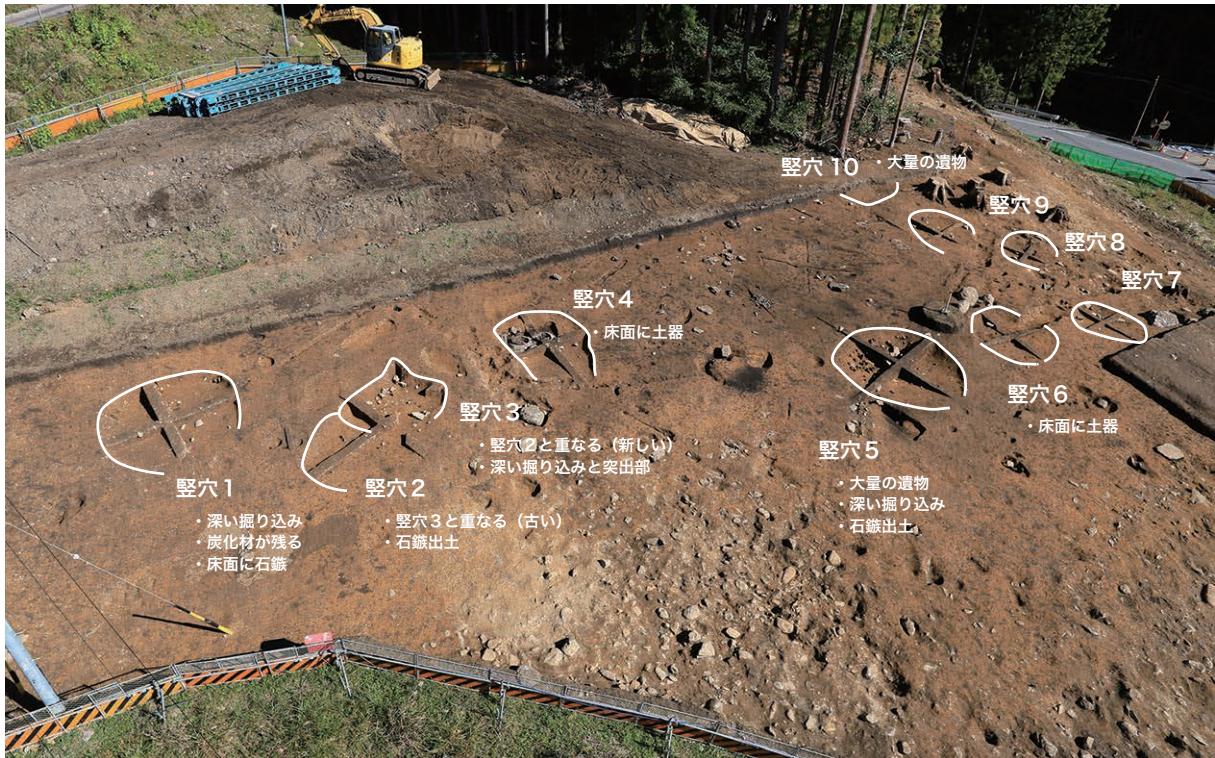


設楽町滝瀬遺跡で縄文時代早期前葉以前、 9,000 年前を遡る竪穴建物跡群を発見！



■何が見つかったか？

設楽町八橋(やつはし)地区の滝瀬遺跡(たきせせき)の平成30年度の発掘調査では、縄文時代早期(そうき)前葉以前、9,000年前を遡る竪穴建物跡(たてあなたてものあと)が10基見つかりました。丘陵の南西向き斜面にまとまって分布する竪穴建物跡群からは、初期の定住集落の様子をうかがうことができます。

■どれくらい古いか？

各竪穴建物跡から出土した土器は縄文時代草創期(そうそうき)、11,000年前にまで遡る可能性も十分にあります。比較検討が可能な土器の絶対量の少なさもあって、土器から新旧を見分けることが難しく、滝瀬遺跡の集落の年代がどこまで遡るかは、現在もなお慎重に検討を続けています。

一方、竪穴建物跡1の炭化物1点について、放射性炭素年代測定(ほうしゃせいたんそねんだいそくてい)をした結果、9,000年前の年代を示しました。この年代は縄文時代早期前半に相当しますが、縄文時代早期前半の特徴を示す「押型文土器(おしがたもんどき)」は竪穴建物跡群周辺からは出土していません。つまり、年代測定結果と土器の出土状況は必ずしも一致していないようです。竪穴建物跡1のみ年代が新しい可能性、あるいは何らかの要因で、今回の年代測定の結果が新しい年代を示している可能性もありますので、今後、さらに測定数を増やす予定です(9,000年前より古い年代を示すことも十分に想定されます)。

少なくとも現状で、滝瀬遺跡は、縄文時代早期の竪穴建物跡2基が確認されている桑田和町北貝戸(くがわちやうきたがいと)遺跡や、縄文時代早期中葉の竪穴建物跡5基が確認されている豊川市天井平(てんじやうびら)遺跡よりも、出土土器の比較からは確実に古く、(縄文時代草創期に遡る可能性がある)愛知県内で最も古い集落の調査事例になります。

■遺跡の重要な点は？

滝瀬遺跡の南西向き丘陵斜面で見つかった 10 基の竪穴建物跡群には、重なり合う竪穴建物跡も含まれています。また、未調査部分を含めると、竪穴建物跡の数はさらに増えると予想されます。遺跡で確認された竪穴建物跡は掘り込みが明瞭なものも多く、一定期間の居住を意識しているようです。これらの事実は、決まった場所を選んで一定期間の居住を繰り返すことで、定住生活が始まった、あるいは集落が営まれるようになったことを意味しています。つまり、滝瀬遺跡は有史以前の人類が定住化する過程、あるいは集落そのものの成り立ちを伝える重要な遺跡ということになります（そのためにも、今後、滝瀬遺跡の出土遺物や年代をさらに詳しく検証する必要があります）。

■どれくらい重要か？

愛知県内で、縄文時代早期前葉以前の（縄文時代草創期に遡る可能性がある）土器が出土している遺跡は、豊田市酒呑（しちのみ）ジュリンナ遺跡、豊田市則定本郷（のりさだほんごう）B 遺跡、豊田市桑田和町北貝戸（くわだわちやうきたかいと）遺跡、豊橋市嵩山蛇穴（すぜじやあな）遺跡、豊橋市西側北（にしがわきた）遺跡、田原市宮西（みやにし）遺跡、新城市萩平（はぎひら）遺跡が挙げられる程度で、いずれも出土した土器の数量は多くありません。

滝瀬遺跡は竪穴建物跡に伴って同時期の土器がまとまって出土した初めての事例になります。



▲竪穴建物跡4の床面から出土した縄文土器

また、全国的には、滝瀬遺跡と同時期かより年代が遡る（縄文時代草創期の）遺構と遺物が良好に確認された遺跡の調査事例として、鹿児島県三角山（さんかくやま）I 遺跡、滋賀県相谷熊原（あいだにくまはら）遺跡、三重県粥見井尻（かゆみいじり）遺跡、静岡県大鹿窪（おおしかくぼ）遺跡、静岡県葛原沢（くずはらざわ）第IV遺跡、長野県お宮の森裏（おみやのもりうら）遺跡、群馬県西鹿田中島（さいしかだなかじま）遺跡等が挙げられます。

特に 10 基前後の竪穴建物跡が確認された遺跡には大鹿窪遺跡、お宮の森裏遺跡があります。前者の大鹿窪遺跡は平成 23 年に国の史跡に指定されています。また、土坑群、重なり合う竪穴建物跡が確認された西鹿田中島遺跡も平成 16 年に国の史跡に指定され、平成 30 年からは史跡公園として公開されています。お宮の森裏遺跡は最近、竪穴住居跡から約 13,000 年前のクリの実が出土したことで話題になりました。相谷熊原遺跡と粥見井尻遺跡は国内最古級の土偶が出土した遺跡としても有名で、後者の粥見井尻遺跡は高架橋に工事計画が変更され、その下に歴史公園として整備されています。

これらの遺跡の例からしても、滝瀬遺跡が国内でも有数の重要な遺跡、東海地方を代表する縄文時代早期前葉以前の遺跡であることが分かります。

●用語の解説

・放射性炭素年代測定（ほうしゃせいたんそねんだいそくてい）

炭素の放射性同位体（C14）を利用する年代測定法。大気中や生物体内に含まれる炭素同位体は、生物が死ぬと放射線を出して崩壊し、5,568 年（半減期）で量が半分になって衰滅する。この原理を利用し、試料中の放射線量を測定することによって年代を知ることができる。

・縄文時代草創期（そうそうき）・早期（そうき）

一万年以上続く縄文時代の時期区分で、以降、前期、中期、後期、晩期と続く。最新の年代測定結果を反映した研究では、草創期は 15,000 年前から 11,000 年前、早期は 11,000 年前から 7,000 年前まで遡る年代も示されている。